



年頭のご挨拶

内閣府沖縄総合事務局長 吉住 啓作

新年あけましておめでとうございます。

年頭の挨拶の前に、昨年発生しました首里城正殿における火災について一言申し上げたいと思います。沖縄の皆様が大切にしてきた、沖縄の皆様の誇りとも言える極めて重要な首里城の多くの施設や貴重な文化遺産が焼失したことは大変残念であるとともに、とても悲しいことでした。沖縄総合事務局としましても、関係機関等と連携の上、沖縄県や地元の方々のご意見を伺いながら、再建に向けて全力で取り組むとともに、観光面でも、きめ細かな対応を行つてまいる所存です。

昨年 7 月に着任し、漸く半年が経過しようとしています。沖縄に赴任して感じたことは、観光で訪れる人が増え、活気に溢れているということです。ご案内のとおり、昨年度の観光客数は、1000 万人の大台を超え、過去最高を記録しました。特に、アジアからの観光客が増え、沖縄とアジアとの距離が一層近くなっていると感じます。本年 3 月末には、那覇空港第 2 滑走路の供用開始が予定されています。この供用開始により、沖縄とアジアはもとより世界各国との距離がより一層近いものになると期待されます。また、令和 4 年の日本復帰 50 周年を目前に控えるとともに、次期沖縄振興計画の策定に向けた議論が更に佳境に入つてくるなど、本年は、沖縄にとって正にターニングポイントの年、勝負の年になるものと思っています。

昨年の着任以来、私が取り組んでいる仕事の一つとして、沖縄県内の市町村訪問があります。この取組は、市町村長からその地域の課題や要望などを直接お伺いするものです。特に、離島については、有人離島のすべてを訪問するとともに、役場のある離島についてはその全てに宿泊し、首長と意見交換をすることとしています。先ずは離島、そして本島北部の市町村訪問から始め、その後、本島の中・南部の市町村に徐々にエリアを広げています。こうした取組によって得られた課題や要望等にかかる情報は、沖縄総合事務局内はもとより、内閣府沖縄担当部局等に適宜共有していますが、今後とも、沖縄総合事務局が地域に役立つパートナーとなれるよう、引き続き徹底した現場主義に立つて、仕事に取り組んでまいりたいと考えています。

終わりに、新春を迎え、沖縄総合事務局が沖縄県民、ひいては国民の期待に応えられるよう、職員一丸となり、日々の仕事に誠心誠意取り組んでまいることをお誓いするとともに、皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げ、私の年頭の挨拶とします。